

抄録：

『興亜』は日中戦争下の華北において華北交通社員会が発行していた雑誌である。華北交通は一九三九年四月に設立された日本占領下華北の交通運輸会社であり、その社員会の機関誌である『興亜』は、華北交通という「国策会社」について理解する上で資するところが大きい。中国人に対する宣撫・宣伝についての記事や文学・文化関係記事など、多様な誌面構成となっており、注目に値する。本稿は前回に続き創刊二年目の記事細目を作成し供するものである。

キーワード：華北交通、外地メディア、占領下北京、国策、宣撫、愛路運動

『興亜』は日中戦争下の華北において華北交通社員会から発行されていた雑誌である。

華北交通設立の経緯や『興亜』についての基本的な情報については「『興亜』（華北交通社員会）解題・細目（一）」¹において簡単に触れておいた。今回細目を収めた第一三号（一九四〇年七月）から第二四号（一九四一年六月）について見てみると、創刊時の編集人・発行人であった福富八郎に代わり、第一四号（一九四〇年八月）より猪川克己が編集人・発行人を務めている。また第一九号からは巻末に「編輯室」欄（第二三号は「編輯だより」）が設けられ、「井口」「大島」の「編輯員」の署名がある。第一九号所載の座談会などから判断するに井口一と大島忠雄の両名と考えられ、両者による記事がその後によく見られるのは細目にある通りである。

さて、第二号では「機関誌『興亜』の役割」を以下のように規定している。

「興亜」は会の動向を報道して本部と会員各個との連繫を密にし、相互の親睦、団結を固むることを第一の使命とす、さらに、一般記事によつて会員の品性陶冶、常識、趣味の涵養に資する役割をも併せ有つ（本部各部の陣容と方針）第二号、一九三九年八月、三七頁）

社員会の内側の「親睦、団結を固むること」が「使命」とされ、同時に「会員の品性陶冶、常識、趣味の涵養」を目的とした記事も重視するとされている。実際の誌面からもうかがった方針は看取することができる。前掲拙稿（「解題・細目（一）」）において指摘したことと関連づけると、「会の動向を報道して本部と会員各個との連繫を密にし、相互の親睦、団結を固むること」が「社内報的な」側面であり、「会員の品性陶冶、常識、趣味の涵養に資する役割」をもつ「一般記事」が「時局・時事問題解説」や「文学・文化の記事」であるといえる。そして「社内報的なニュースと、時局・時事問題解説とが判然とは分けにくい」点こそが同誌の特徴なのである。

また、前掲拙稿で指摘した通り、「中国民衆に対する宣撫・宣伝、とりわけ「愛路工作」に関する記事が非常に多いこと」は今回の細目で取り扱った期間においても同様であり、創刊一年目に比べさらに重きが置かれている印象を受ける。内容も多岐にわたっており、愛路運動・工作について詳細に紹介されている。一例として第一六号をみると、「愛路宣撫行 第一回愛路自動車に乗つて」のような編輯員の筆による宣撫旅行の記録あり、田尻末四郎「愛路運動の話」のような愛路運動につ

いて基礎から詳細に解説しつつ「愛路美談」まで紹介する記事ありで、同誌が愛路運動・工作についての記事に大変力を入れていることがわかる。

松本光之「北支の農村建設と愛路工作」(第一五号)は、中国文化は「都市の文化」であり、「北支農村の文化の程度は恐ろしく低い」とする。とりわけアヘン戦争以降の「欧米帝国主義を前衛とした資本主義文明の侵入、欧米勢力による半植民地的社会体制への移行等々」により「彼等をして嘗て経験しなかつた程の急歩調をもつて没落過程に押し進めて行つた」とし、欧米列強によつてより「没落」させられたと批判的に分析している。しかし華北交通による愛路工作は、「二千万愛護村民の渴望して」いる「農村の更生、民生の安定向上」に寄与するものであり、「現在鉄道は、至難なる環境を克服し万難を排して全愛護村地帯に互り、文化・経済等凡ゆる部面において農村更生の施策を実践しつゝあり、愛護村民は農村建設の輝かしき脚光を浴びて逞ましき前進を続けてゐる」のだと結論づけている。

また、田尻末四郎「愛路運動の話」(第一六号)は、愛路運動がどのような「民衆運動」であるか、その内容、意義、機構・組織、具体的工作などを簡潔に説明したうえで、「民路合作のスローガンの下に日夜不眠不休で努力した会社側の諸工作の結果、事変当初その去就に惑はされてゐた村民も漸くその帰するところを知り(中略)彼らは自己の職も忘れて鉄道の監視に、巡察に、或は匪情の蒐集報告等に生命を忘れて積極的に協力するやうになつたのである」と中国の民衆が自発的に愛路運動に協力するようになったと謳っている。

しかし、実際の愛路運動は中国人から積極的な協力を得ることはほとんどなかつた。「愛路活動はしばしば中国社会の利益と遊離し、中国民衆の不評を買つた」⁽²⁾のである。華北における愛路工作は、もともと軍が担当していたのを華北交通が引き継いだのだが、「匪賊」による「駅舎の襲撃や列車運行妨害、電線切断などの被害」⁽³⁾頻繁に起こっていた。『興亜』の誌面においても「殉職者」についての記事が毎号のように見られる。『興亜』の読者は華北交通の社員やその家族が中心であつたと考えられるため、愛路運動・愛路工作について無知な読者が大半を占めていたとは考えにくい。いつ殉職するかわからないような状況のなかに働く社員に対

し、愛路運動の理念や重要性を繰り返し何度も強調することで「団結を固むること」が目的だつたのだからと考えられる。愛路運動の理念・意義や中国民衆からの歓迎を謳いあげることにより、使命感を醸成させ、華北交通社員会の一体感を緊密なものとするための装置として同誌は機能していたといえるだろう。

註

- (1) 神谷昌史・戸塚麻子「『興亜』(華北交通社員会) 解題・細目(一)」『滋賀文教短期大学紀要』第二二号、二〇二〇年。
- (2) 内田知行「日本軍占領と地域交通網の変容—山西省占領地と蒙疆政権地域を対象として」エズラ・ヴォーゲル、平野健一郎編『日中戦争の国際共同研究3 日中戦争期中国の社会と文化』慶應義塾大学出版会、二〇一〇年、二三八頁。
- (3) 井上隆一「坊子警務段長の二年」華北交通社員回顧録編集委員会編『華北交通社員回顧録』華交互助会、一九八一年、一頁。

『興亜』第一三号—第二四号(一九四〇年七月—一九四一年六月) 細目

凡例

- 一、書誌事項は、号数、発行年月日、特集号の場合はそのタイトル、の順に記した。
- 一、細目は本文に即して採り、記事名、執筆者名、掲載頁の順に記した。挿絵等については作者名に続いて画と記した。
- 一、本文乃至目次に記されている特集欄、コーナー、ジャンルなどについては(ハ)に入れて表記した。
- 一、本文乃至目次に表記されていないが、ジャンルなどの表記が必要と判断したもののについては、(短歌)のように(ハ)に入れて表記した。
- 一、本文に記されている執筆者の肩書や所属については(幹事長)のように(ハ)に入れ、名前の後に付した。

一、(英)のように本文中で()に入れて表記されている執筆者名については、()を付したままにした。

一、註が必要な箇所については*を付し、各号細目の最後に註を置いた。

第三号(一九四〇年七月一日発行)

〈巻頭言〉 事変三周年に際して

(弘報部編輯班長 板屋猛)

日本青年の使命と覚悟

新井堯爾(理事) 2 | 3

東亜新秩序の建設と鉄道の使命

竹内新平(興亜院第一経済課長) 3 | 4

開封

戸田松三郎(厚生課) 6

物価の話 北支の物価は果して天井に達したか?

5

時事解説

8

〈グラフ〉 第一回洋画展

(資料課提供) 9

〈グラフ〉 通州農事試験場

(資料課提供) 10 | 11

〈グラフ〉 海ひらく

(資料課提供) 12

黄楊の櫛

みづの・かほる 13

我輩は鉄道貨物である

和井憶太(貨物課) 14 | 15

貨物輸送陣の活躍

(運輸部配車課) 15 | 16

〈華北交通新聞〉

17

〈自動車路線一萬キロ突破〉

18 | 19

宿直の夜の危急―膠縣在勤一年を想ふ 武居生(膠縣自動車営業所)

18 | 19

建設の人柱を憶ふ

藤田豊(石家荘自動車事務所長) 19

宣化站长さん 煙草ばなし

18 | 19

霧の包頭

岡本二三男(張鉄総務処文書科) 20 | 22

蒙古への旅 キヤラバンへの思慕

南原義種 22 | 23

蒙古の字義

雨夜辰巳 23 | 24

〈短歌〉 城所英一選

上野ひさし(原平) 24

植樹其他

24

北京行 田中政蔵(濟南) 24

信号所にて 野村作太郎(三鋪站) 24

門頭溝にて 鈴木一郎(北京) 24

京包線 佐々木邦夫(北京) 24

武田辰雄(陽泉) 24

佐藤勝子(石家荘) 24

北京から太原への旅 傷ついた赤靴 小山省慧(太原鉄路局經理処) 25

日本を見て 扶輪学校々々長 日本視察感想座談会

郝耀五(天津第一)・段星垣(同第二)・郎豫增(唐山)・祁麟閣(山海関)・

高好徳(北京東城)・楊鎮凱(長辛店)・金魁芬(南口)・楊毓琪(張家口)・

武馨遠(大同)・王默萍(濟南)・郭業耜(青島)・史全信(太原)・清水勇吉

(引率者)・松下真二(同)・山口理事・林原監察・孫厚生課副課長・田中監

察附・神代京鉄総務処長・寺坂厚生課長、城所弘報部長・趙人事課副課長・

愛路課員二名 26 | 27

(学事関係) 三牧・是枝・矢島・高橋(京鉄学事) 木村・高城 27 | 28

愛護村長は日本で何を見たか 井上隆一(愛路課) 28 | 29

夏と子供の衛生―消化不良・疫痢等の予防と手当―佐藤秀(北京鉄路医院) 29

下花園雞鳴山登行〔俳句〕 富野蘆笛(張家口鉄路医院) 29

〈満鉄に使した婦人使節に聴く〉

整備した満洲と創造の華北 原口つや子(北京電氣段電話交換所) 30

恋愛のゴールは暖かい家庭 竹下睦子(北京電氣段電話交換所) 30

科学と大自然 撫順の貴い姿 井村満江(北京鉄路医院) 30 | 31

平和に生きる満洲の農民達 荒川百笑(本社文書課) 31

奉天鉄道局長さんの御言葉 紫藤つぎ子(本社購買課) 31

歡樂境の蔭に悲しい同善堂 阿保光枝(青島自動車事務所) 31

走馬燈のやうな想出：都市 村松幸(張家口鉄路局文書課) 31

〈俳句 石原沙人選〉大川清峰(臨汾機務段) 高尾凡(豊台用品庫) ふち・まさを(京

鉄総資）眞柄博（石門站） 佐々木嶺々（趙伊站） 金子蟹石（張鉄）	31
（備考）	
沙人生	31
鉄道青年隊通信	32 34

第一回色別庭球大会・太原の留守宅家族慰安大運動会・第三回各課対抗排球大会	32 34
青年部文化団主催 第一回洋画展を観る	34
（社員会ニュース）	35 40
（満鉄社員会だより）	38 39
消費生計所主要配給品売価表（六月十五日現在）	41 42
人事局厚生課	41 42

第一四号（一九四〇年八月一日発行）

〈巻頭言〉 青年の意欲	1
石原四郎（青年部長）	1
洪水と中国国民性	2 3
田中求	2 3

奢侈品禁止令はなぜ行はれたか―戦時国民生活へ突風	3 4
戸田松三郎（厚生課）	3 4
兵士の最後の言葉と青年への期待 *1	4 7
松井真二（興亜院調査官・陸軍大佐）	4 7
製造販売禁止物品表	4 7
中国人の見た日本人	7
時事解説	8
ハガキ原稿募集―無駄をなくす	8

〈グラフ〉 北京―太原直通列車開通 七月一日	9
（太原資業科撮影）	9
〈グラフ〉 事変第三周年 一文字山大行進	9
（事務局撮影）	9
〈グラフ〉 天津外国租界風景	10 11
（事務局撮影）	10 11
〈グラフ〉 第一回写真展	12
（事務局撮影）	12

閩錫山について聞いた話	13
野地米次郎（太原鐵路局管財科）	13
現地のお父さんへ別居家族から *2	13

鐵道人前線の妻―匪賊と戦ふ日本女性の心意気―	14 15
田村藤江（現開封電気段勤務田村一美氏夫人）	14 15

健闘手記募集	14
死の北京籠城（上）	15 17
（社業の動き）	18 19
潮杜介	15 17

王昭君の墓（青塚）を調査する	20 22
嘉屋本春雄（張鉄・旅客科）	20 22
蒙古の旅（完）	22 23
南原義種（張鉄・資業科）	22 23
厚生列車便乗記 京古線をゆく	23 24
永田美那子（愛路課）	23 24
農民の子等	25
みづの・かほる	25
褐色の張家口	25
井口編輯員	25
通信修理班（掌篇）	26
谷義雄（済南電気段）	26
凝思抄（短歌）	26
渡辺不二男（石太線測石站）	26
並木（掌篇）	27
蛙舳同（北京列車段）	27
（声）	28 29

〈短歌 城所英一選〉 *3	28 29
出発	30
萩谷不可止（嶧縣站）	30
前線	30
川北宗次郎（厚和）	30
厚生列車	30
井上忠雄（北京）	30
領家巖（北京） 水野うしほ（済南） 福永軍治郎（石門） 矢守美鳥（天津）	30
佐藤秋鈴（彰徳） 佐藤竜男（札元站） 武居強（膠縣） 蓮池栄治（厚和）	30
斎藤静緒（張家口） 川内正光（石門） 高山峰重（済南）	30
人的欠如	30
大寒堂仙骨（済鉄・営業処）	30
（俳句 石原沙人選）	30

下森宣美（保線課） 川内正光（石門機段） 新井草夢（天鉄資） 相原三郎（徐州	31
資材） 武田瑞仙（馬頭站） 岡村弘（包頭医院） 小沢隆山（京鉄学院）	31
お送りできずにゐる原稿料の処置 心当りの方は御一報を	31
日本式算盤と日本語の教育	32
坂口秀広（天鉄審査科）	32
第二回興亜記念駅伝競走に二連覇	33
会社防護の強調と北京管区防空演習	34 36
防衛委員会	34 36

扶輪学校の子供たち 大島編輯員 34 | 35

扶輪学院で予科生募集 35

扶輪青年隊通信 36 | 37

肺結核は必ず治る 池田臯 (北戴河海浜分院) 36 | 37

〈社員会ニユース〉 38 | 40

〈満鉄社員会だより〉 39

消費生計所主要配給品売価表 (七月十五日現在) 人事局厚生課 41 | 42

開封鉄路局組織一覽・徐州鉄路弁事処組織 42

* 1 末尾に「鉄道青年隊での講演から」とある。

* 2 「原稿募集」とある。

* 3 最初に「凝思抄 測石站 渡辺不二男/別掲 (本文中に登載)」とある。

第一五号 (一九四〇年九月一日発行)

〈巻頭言〉 我等は日本人である 加藤新吉 (常任幹事) 1

北支の農村建設と愛路工作 松本光之 (愛路課) 2 | 3

良書推薦原稿募集 3

最前線の現場 (座談会) * 1

(出席者) 水野博 (運輸科長)・柳田一馬 (運輸科)・大畑逸策 (〳)・大島正

(〳)・朝枝肇 (警務科長)・有馬純行 (監理科長)・山口久次郎 (棗莊站副站

長)・米田毅 (臨城検車段技術員)・上原順造 (徐州検車段副段長)・服部新

一 (〳)・高橋銀三郎 (宿縣警務段)・山城香甫 (徐州站長)・田中休助 (徐

州電気段副段長)・岡口竹次 (臨城工務段段長)・浅木健吾 (宿縣電気分段電

力工長)・平山武 (徐州警務科愛路主務)・橋立休哉 (徐州監理科)・蓮沼久 (徐

州列車段副段長)・渡部治夫 (徐州列車車守)・大橋徳藏 (徐州列車車守)・

■田才藤 * 2 (徐州電信所主任)・西尾久義 (趙墩站副站長)・板倉伊十郎 (趙

墩工務段材料員)・水野栄助 (李莊站站長)・中野隆雄 (宿縣工務段保線副段

長)・前田福藏 (徐州工務段監工員)・富沢孫三郎 (新安鎮站副站長)・陶山

義夫 (徐州機務段技術副段長)・喜田清 (臨城工務段庶務副段長)・佐藤清治

(臨城機務段指導司機員)・佐藤辰五郎 (臨城警務段警務員)・友添十次郎 (徐

州警務段警務員) 4 | 5

中国の憲政実施と政党 寺田孫次 (南京駐在員) 6 | 8

〈グラフ〉 夏に鍛ふ 太原資料科事務局撮影 9

〈グラフ〉 鉄路愛護村 愛路課事務局撮影 10 | 11

〈グラフ〉 北京点描 事務局撮影 12

北京の森の小鳥 みづの・かほる 13

京漢 隴海 津浦線 編輯 14 | 15

死の北京籠城 (下) 潮壯介 16 | 18

北京の蟬 増田タエ 18

北支考現 錢稻孫氏に訊く 19

華北第一劇団皇軍慰問公演 19

大陸の復興 * 3 佐原憲次 (理事) 20 | 21

水と鉄道 本庄進 (水道課) 21

〈社業の動き〉 22 | 23

我等の真剣に求むるもの (青年部懸賞一等入選論文) 長穰 (東京事務所) 24 | 31

〈俳句 石原沙人選〉 高山八重子 (済鉄事故科) 相原三郎 (開鉄資業科) 野村作

太郎 (三舖站) 大前恵兵 (資料課) 下島ひさし (資料課) 沙人 28

(附言) 沙人生 28

社員の保健状態から観た北支の生活環境 村瀬涉 (保健課) 32

保健科学研究所とは何をするところか * 4 編輯 33

〈主婦の覚え書〉 これは経済 陽泉炭の使ひ方 猪塚才吉 (経理部倉庫課) 33

〈社員会ニユース〉 34 | 36

〈満鉄社員会だより〉 36

第貳次役員名簿 (聯合会長・中央評議員・評議員) 37 | 38

各聯合会区分会表 * 5 38 | 40

消費生計所主要配給品売価表（八月十五日現在） 人事部厚生課 41-42
 家庭メモ 42

- * 1 「出席者」欄の最後に「全員徐州弁事所属」とある。
- * 2 一字判読難。
- * 3 末尾に「七月六日東京中央放送局より放送の要旨」とある。
- * 4 目次には「大陸保健科学研究所」とある。
- * 5 目次には「各聯合会分会区分表」とある。

第一六号（一九四〇年一〇月一日発行）

大東亜圏と新体制 高橋定一（幹事長） 1
 愛路宣撫行 第一回愛路自動車に乗つて 大島編輯員 2-3
 雷 増田タエ（文書課） 3
 中国の憲政実施と政党（下） 寺田孫次（南京駐在員） 4-5
 装甲列車で石太線を行く 柄本編輯員 6-7
 自己内省を……—藝文雜記— 村上駒之助（中央路学院） 7
 五台聖境 小池亮夫（旅客課） 8
 〈グラフ〉 * 1 資料課撮影 9-11
 〈グラフ〉愛路自動車に乗つて * 2 事務局撮影 10-11
 〈グラフ〉「華北交通の歌」作曲予選風景 事務局撮影 11
 培ひ育てる心 みづの・かほる 13
 青年よ夢に生きよ * 3 佐藤欣二 14
 電話交換嬢座談会 藤沢由蔵（済南鉄路局） 15
 聊齋志異の著者 蒲柳泉（上） 16-17
 阿媽談義（老媽）の話 * 4 石敢当 18-19
 笠置山に訊く（厚生課主催の座談会より） 18
 中国の岩 南朝莊人 19
 愛路運動の話 田尻末四郎（愛路課） 20-21

日滿支連絡運輸協定の成立 朝倉幸一（運輸部貨物課） 22
 現地綴方教室「お父さま」ちかく出版 22
 社業の動き 23
 「華北交通の歌」作曲成る 24-26
 選曲余話 編輯 27

胃袋も新体制へ！——ドイツの食糧政策に学ぶ—— 勝直義 28-29
 〈声〉 30-31

〈俳句 選石原沙人〉 浦速雄（中央学院） 川島義雄（京鉄） 田崎善吉（石門警段）
 永田重盛（順徳工段） 武井静風（昌榮警分） 武田瑞仙（馬頭站） 柳田豊田（永定門站） 半戸正視（豊台機段） 川内正光（石門機段） 大川清峰（臨汾機段）
 野村作太郎（三舖站） 前田方截（程家診療所） 大村陸雄（済南電信所） 新井草夢（天鉄資） 秋元金也（介休列車段） 小沢隆山（京鉄学院） 金子蟹石（張鉄会計） 白石久詩子（西直門） 32-33

〈短歌 選城所英一〉 萩谷不可止（済南） 32
 敵襲 森国盛（大同） 32

装甲列車 秋山良次（天津） 33
 水害地 杉本繁夫（石門） 33
 大陸雜詠 松島一郎（北京） 32
 雨 水野うしほ（済南） 32
 晩夏 佐藤勝子（彰徳） 中村千市（磁縣站） 武田辰雄（陽泉） 福永軍治市 * 5
 〔石門〕 福田弘（石門） 笹原繁（北京） 菊池勝（石門） 田崎善吉（石門）
 高山峰重（済南） 永田重盛（順徳） 川内正光（石門） 大塚堅固（北京） 32-33

統一的欠如 仙骨生 32
 〈ハガキ原稿〉 無駄をはぶく 33
 〈社員会ニュース〉 34-38
 〈満鉄社員会だより〉 38

消費生計所主要配給品売価表（九月十五日現在） 39-40
人事局厚生課
家庭メモ 40

〈我等いま戦ひつゝあり〉

挺身調査隊員の手記

小田繁蔵（太原鐵路監理所） 14-15

* 1 本文にタイトルなし。目次には「善男善女」とある。

一時は『万事休す……』

上村藤夫（賽魚站长） 15-16

* 2 タイトルの下に「愛路宣撫行」記事参照」とある。

戦闘吟〔短歌〕

渡辺不二男（測石站） 16-17

* 3 末尾に「鉄道青年隊への訓示」とある。

拉致された二十日間

菅原上湖站长（柄本編輯員記） 17-18

* 4 目次には「阿媽談義」とある。

大和撫子ここにあり

前田方截（程家診療所） 18

* 5 「福永軍治郎」の誤りか。

同蒲線匪襲地視察行

今村鴻明（張鉄・資業科） 18-20

長倉君斃る

金沢勝一郎（石門工務段庶務） 19

鐵路農場を守つて散華 広崎吉夫君を憶ふ

兵藤忠四郎 20

広崎君追悼句

升田量雪 20

〈本年度我等の目標〉

崇高・華北交通魂

吉田一（事務局） 20-21

第一七号（一九四〇年十一月一日発行）

〈巻頭言〉 諸君と共に大陸交通の金字塔を建てむ

宇佐美寛爾（総裁） 1

〈本年度社員会運動に關しての抱負〉

高橋定一（幹事長） 2-3

〈本年度実践大綱〉

石原四郎（弘報部長） 3-5

〈本年度各部の方針〉

事業部の方針

佐藤欣二（事業部長） 4

弘報部の方針と抱負

石原四郎（弘報部長） 4

厚生部の方針と計画

福島渡（厚生部長） 5-6

庶務部の方針と事業計画

境米市（庶務部長） 5

會計部事業計画

大槻輝男（會計部長） 6

興亜新青年運動の展開

本庄進（青年部長） 6-7

婦人部の方針

村瀬涉（婦人部長） 7

「華北交通の歌」献呈の辞

加藤新吉（常任幹事） 8

窓〔詩〕

川畑淑子 8

〈グラフ〉「華北交通の歌」献呈式

資料課撮影 9

〈グラフ〉鍛へる興亜青年層 資料課・張鉄資業科・京鉄鉄道青年隊第四分隊撮影

10-11

〈グラフ〉留守宅家族慰安会

事務局撮影 12

社業の動き

13

千仏山

水野うしほ（済南） 26

〈短歌 選城所英一〉 * 1

聊齋志異の著者 蒲柳泉（下）

藤沢由蔵（済南鐵路局資業科） 24-25

体育日常生活と運動施設の急施提唱

林原憲貞 26

鳥〔詩〕

吉池善太郎（防衛委員会） 22

新体制とは何か

22-23

社服賛歌〔詩〕

増田夕エ（文書科） 23

烏〔詩〕

下島ひさ 21

小沢隆山（京鉄学院）白石久詩子（西直門）大前恵兵（資料課）

21

し（資料課）

21

曠野 萩谷不可止(濟南) 26

清水澗 鈴木一郎(北京) 26 | 27

工場作業 久保こてき(濟南) 27

麻柄逸子(濟南) 井上忠雄(北京) 野村作太郎(三鋪站) 中村規矩三(太原)

S・S生(臨城) 西田八千代(石門) 蓮池栄治(厚和) 福永軍治郎(石門)

上山茂(陽泉) 川内正光(石門) 大塚堅固(北京)

〈声〉 27

〈社員会ニュース〉 28 | 34

〈満鉄社員会だより〉 30

写真展の作品募集(青年部) 34

消費生計所主要配給品売価表(十月十五日現在) 35 | 36

家庭メモ 36

*1 最初に「戦闘吟 測石站 渡辺不二男/三十八首別欄登載」とある。

第一八号(一九四〇年二月一日発行)

〈巻頭言〉 我等の興亜新生活運動 福島渡 1

〈華北交通・新職制の全貌〉 人材適職主義の実施(十一月一日・総裁訓話) 2 | 4

組織一覧と幹部総陣容 2 | 7

新職制の運用に就て(十一月十四日・本社幹部に対する総裁の指示) 4 | 7

叙勲に輝く三十二君 5

社業の動き 8

〈グラフ〉 青空を截る 第二対青島球戦譜 *1 編輯撮影 9

〈グラフ〉 興亜の朝に祈る 第一回殉職社員追悼会 資料室提供 10 | 11

〈グラフ〉 建設 華北 躍如 *2 資料室提供 編輯撮影 12

竜門の石仏詣 武田勝雄 13

枢軸国とソ聯・米国 大場弥平少将にものを訊く

我が青年時代(対談) (興亜編輯側) 小野沢・柄本・井口・大島 14 | 15

竹村勝清(太原鐵路局副局長・社員会前幹事) 竹森愷男(警務局愛路第二主幹・社員会現幹事) 16 | 19

突破(短歌) 中沢一雄(青島) 19

山海関繁昌記 大島編輯員 20 | 21

沢州新路線をゆく 中村芳博 21

〈愛路工作の体験〉 妻に薬を持たせて敵の部落に入る 桑原警務員 22 | 23

産婆がはりもつとめた私の体験 黒沢站长 *3 24

毛利元就の故事で教へた「協力」 永田警務員 24 | 25

活字の哲学 北海秋夫 23

王府井の犬 中島荒登 25

社員の消費規制運動——その目標と実践—— 中島庄蔵 26 | 27

〈俳句 石原沙人選〉大形駿(京鉄医院) 川島義雄(京鉄人事) 大堀皓(頭泉站) 高橋実(濟鉄事故) 前田方截(程家診療所) 小沢隆山(京鉄学院) 下島ひさし(資業統計) 今村義夫(石門機務段) 27

〈短歌 城所英一選〉 *4 大明湖 田中政蔵(濟南) 28

晚秋 水野うしほ(濟南) 28

僚友殉職 杉本繁夫(石門) 28

痘苗作業 菊池縁生(北京) 28

傷友 武田辰雄(陽泉) 28

廟祭 今村義夫(石門) 28

妻病む 萩谷不可止(濟南) 28

井上忠雄(北京) 李美代子(長辛店) 中本千市(磁縣站) 菊池勝(石門) 大堀皓(頭泉站) 田崎善吉(石門) 大島巨岩(北京) 大形駿(北京) 福永軍治郎(石門) 関伊佐夫(臨城站) 青柳嘉忠(豊台) 長田葉堂(張店) 氏原栄次

郎（齊亦集站）大塚堅固（北京）

本誌の短歌について

高等技術員養成所だより

冬の衛生

愛路少年隊諸君へ 日本の少年から感激の手紙 * 5

〔声〕

社員会ニュース

満鉄社員会だより

* 1 目次には「北京第一対青島野球戦」とある。

* 2 目次には「日向建國博と朝鮮博」とある。

* 3 目次には「黒沢公積坂站长」とある。

* 4 最初に「突破 青島 中沢一雄 七首別欄に登載」とある。

* 5 目次では「少年」が「少年少女」となっている。なお、投稿者に女性らし

き名は見られない。

第一九号（一九四一年一月一日発行）

〈巻頭言〉社員会の新体制

現地文化運動と我が青年社員（座談会）

（出席者）有田孝之・川辺武彦・神田秀男・小池亮夫・中島荒登・

引田春海・川西睦

（編輯側）佐々木秀光・小野沢亘・柄本文衛・井口一

時事偶感〔短歌〕

旧年子新年子〔俳句〕

〔文化〕とは

凌駕蒼穹的祈年殿

紀元二千六百年奉祝典参列の記

松岡外相と会見

城所英一

山下弘之（華北交通派遣学生）

武内暲純

* 5

30 | 31

31

32 | 36

36

〈グラフ〉門神翁（メヌ シエヌ イエ）

〈グラフ〉山海関・古北口・包頭 北支の関門（1）

〈グラフ〉北支のお正月

女性よ美しくあれ

国境第一線・包頭を語る座談会

（出席者）横尾和六（包頭站长）・高津治男（站）・早瀬正一（同）・高橋栄一

（包頭公所）・西森三好（同）・岡村弘（病院）・宮沢清子（同）・王谷秀雄

（扶輪学校）・大林住五郎（生計所）・金田一義雄（列車分段）・重松於兔彦

（警務段）・津茂谷保太郎（工務段）・山本与之亟（同）・高橋源作（同）・吉

井謙吉（電気分段）・平井美枝子（同）・森尾徳市（検車分段）・内記嘉登

（機務分段）・萩谷由松（汽車公司）・〔興亜〕編輯 大島忠雄

漁村曙〔俳句〕

社歌

蒙疆通信

東亜共栄圏と鉄道（一）蘭印鉄道

北支棉花の重要性

ソ聯外交余話

西北への夢

大陸雑感

家庭と愛情

大学附近〔絵と文〕

現実の逼迫性

凧〔俳句〕

氏名の悪戯

茶館〔絵と文〕

槐〔俳句〕

ごみ箱

資料室提供 9

資料室提供 10 | 11

編輯撮影 12

古川一洋 13

江川三昧 15

大島編輯員 17

植村福七 18 | 19

池田麻之助（北京鐘紡在駐） 20 | 21

山縣正（警務局） 20 | 21

高建子（東亜新報社員） 22

伊谷賢蔵（洋画家） 22 | 23

江崎磐太郎（東亜新報社員） 23 | 24

中島荒登 23

石川輝（東亜新報社員） 24 | 25

下島ひさし 24

今田金太郎（長辛店站） 25 | 25

亘 * 2 25

大前恵兵 26

みづの・かほる 26

北京の街路
〈短歌五人集 城所英一選〉

増田タエ *3 27

忠霊塔

田中政蔵(済南) 27

年頭詠

萩谷不可止(済南) 27

機関庫

秋山良次(天津) 27

続・戦闘吟

渡辺不二男(南溝) 27

苦力の歌

尚吾想(青島) 27

西太后(上)

石橋丑雄 28-29

小さな原始人の歌

今村義夫(石門機務段) 29

北京の天主堂

一氏義良 30-31

邯鄲遺跡の発掘調査

下森郭郎 31

泰山登臨記

井出黒潮(済鉄自動車処) 32

蒲州(同浦線の最南端)

石原省吾 33

勝関の朝

平田末友(京鉄・警務処) 34

嵐の小清河行

故東郷貞次手記 34-35

さいかち〔詩〕

仲間義秋(東京) 34

〈俳句 石原沙人選〉小沢隆山(京鉄学院) 野村作太郎(三浦站) 川部博水(天津電

気修理廠) 尚吾想(青島医院) 武田瑞仙(馬頭站) 柳田正雄(永定門站)

半戸正視(豊台機段) 宮原白雨(原平鎮機段) 金子蟹石(張局) 37

灸医療の話 田中恭平 36-37

〈声〉 36-37

〈社員会ニュース〉 38

〈編集室〉 井口 38

消費生計所主要配給品売価表(十一月十五日現在) 総務局(給与) 39-40

中国郵便料金表・航空郵便料金表 40

*1 表記のまま。

*2 目次には「小野沢亘」とある。

*3 目次では「増田タエ」

第二〇号(一九四二年二月一日発行)

〈巻頭言〉 予算生活の確立

大槻輝男(会計部長) 1

新体制と新職制

野田秀夫 2-5

〈随想〉 烤鴨子(カオヤーズ)の家鴨(あひる)

宇佐美寛爾(総裁) 3

論文募集「我今華北交通に職を奉ず」

青年部 4

〈俳句 石原沙人選〉山田義雄(天津機段) 風来坊生 ミキコ生(寧武站) 上野明(彰

徳機段) 川津さとる(石門) 川副彰子(南口) 坂元良雄(頭泉站) 古川竜

三(兗州) 武田辰雄(陽泉警段) 野村草風(徐州站) 半戸正視(豊台機段)

佐藤勝子(彰徳医院) 鈴木忠夫(北京) 柳田正雄(永定門站) 久保こてき(済

南) 田中義明(天津站) 鳥谷秀子(済鉄医院) 白石久詩子(西直門) 金子

蟹石(張鉄) 山口枯泡(兗州司令所) 小沢隆山(京鉄学院) 5

前線社員慰問を目的 北翠会結成さる―在北京夫人の計画―

安武誠一 6-7

華北百年戦争

幹事長の横顔

K 7

東亜共栄圏の確立に関する基本問題

殷同(副総裁) 8

〈グラフ〉 耐寒踏破五十二キロ *1 資料室提供 9

〈グラフ〉 日華満国交成立民衆大会 *2 編輯撮影 9

〈グラフ〉 射撃訓練 資料室提供 9

〈グラフ〉 石炭 編輯撮影 10-11

〈グラフ〉 穴居 *3 編輯画 12

中間站防衛の一考察 上村藤夫(元養魚站长) 13

新体制と青年(座談会)

(出席) 有田孝之・下田詮・代筆・谷弥七・戸田松太郎・枝村晴夫・角入正夫・松井成徳・山田隆一・山内日露・柏木宝丸・真崎日出国・川西睦

戦闘吟拾遺〔短歌〕 渡辺不二男(東路線南溝站) 16

16

〈社業の動き〉

機関車乗務員の手記

安達巖 (石門機務段)

17

追悼会の盛儀に感激 英霊の妻より真心の礼状

〈読書〉

西太后 (下)

石橋丑雄 24 | 25

初巡視——石太・同蒲・東路線——

竹村勝清 20 | 21

東亜共栄圏と鉄道 (二) 仏印鉄道

植村福七 22 | 23

〈短歌 城所英一選〉 * 4

処女妻

中沢一雄 (青島) 23

年頭詠

水野うしほ (済南) 23

秋の頃

尚吾想 (青島) 23

歩哨

田中政蔵 (済南) 23

冬翳抄

深沢顕六 (大同) 23

新年前後

萩谷不可止 (済南) 23

山の冬

鈴木一郎 (北京) 23

洋燈

森国盛 (大同) 23

寒波

秋山良次 (天津) 23

乗務

木村つとむ (石門) 23

戦闘

福田弘 (石門) 23

緋

井上忠雄 (北京) 23

局報

野村作太郎 (徐州) 23

故北白川宮

朝河宏 (張家口) 23

皇紀奉祝

手塚啓治 (北京) 23

杉本繁夫 (石門) 今村義夫 (石門) 長田葉堂 (張店) 川北宗次郎 (厚和) 麻柄

逸子 (済南) 武田辰雄 (陽泉) 半戸正視 (豊台) 高島浪花 (頭泉站) 李美代子 (長

辛店) 佐藤勝子 (彰徳) 菊池勝 (石門) 中本千市 (磁縣站) 長田青波 (豊台)

笠田虎彦 (太原) 福永軍治郎 (石門) 川内正光 (石門) 古川竜三 (兗州) 斎藤

静緒 (張家口) 松本千束 (天津) 田島耕平 (北京) 関伊佐夫 (臨城站) 芝生 (張

家口) 田中義明 (天津站) 秋山旅道 (済南) 上野明 (彰徳) 大堀皓 (頭泉站) 川

副彰子 (南口) 中央生徒 (北京) 坂元良雄 (頭泉站) 川津さとる (石門) 23

アルベルト シュヴァイツェル わが生活と思想より 深瀬竜 26 | 27

何幹之著 支那の経済機構 南原義種 26

中谷宇吉郎著 雪 増田タエ 27

橘樸著 支那社会研究 Y・I生 27

後藤末雄著 支那四千年史 小山省焔 27

〈社員会ニュース〉 28 | 36

〈満鉄社員会だより〉 34 | 35

役員異動 36

〈編輯室〉 井口 36

* 1 目次では「塘沽—天津耐寒踏破行」とある。

* 2 目次では「満・華国交調整祝賀式」とある。

* 3 本文にタイトルなし。

* 4 最初に「戦闘吟拾遺 南溝站 渡辺不二男 二六首別に掲載」とある。

第二一号 (一九四二年三月一日発行)

〈巻頭言〉 物資愛護について 池原義見 (幹事) 1

華北交通を生かす道 社員と社員会との関係において考える 加藤新吉 2 | 4

日米関係は何処へ行く 安武誠一 5

社歌レコード予約募集

高度国防国家と文化 大政翼賛会文化部長 岸田国士氏に訊く (編輯 大島・井口) 6 | 7

〈僕らの街〉

張家口 今村鴻明 (張家口鉄路局資業科) 8

太原 山科省平 (太原鉄路局厚生科) 8

内地散歩

T・O生 8

〈グラフ〉石徳線開通

北支派遣軍報導部貸下 9

〈グラフ〉建設の戦ひ 匪襲を排しつゝ、我等の鐵路はのびる 資料室提供 10-11

〈グラフ〉ヨイシヨ！ 総力綱引大会

工務局・編輯撮影 12

〈社業の動き〉

13

〈特集〉

石徳線建設譜

14-15

建設前夜 石徳線愛路工作

齊木務 14

滄石路 二百四〇キロ踏破

大島編輯員 16-17

新しき心構

伊藤昌二(資業局) 15

過渡期の日本人(座談会) *1

島一郎(東京支社長)・永田久次郎(東京聯合会長)・梅田義雄(評議員)・長穰(青年部長)・村田忠治(会計部長)・松田武亥(婦人部長)・紀平為蔵(第三分会長)・仲間義秋(青年部委員)・土屋鶴治(同)・藤江輝雄(厚生部委員)・山村延雄(同)・芝本善彦(弘報部委員)・江口為茂(同)

文化の毒——東京雑感——

井口一 20-21

〈短歌〉泰山行

田中政蔵(濟南) 21

東亜共栄圏と鉄道(三) タイ鉄道

植村福七 22-23

〈短歌 城所英一選〉 *2

大明湖

水野うしほ(青島) 23

晩秋

朝河宏(張家口) 23

母の佛

上野ひさし(古冶) 23

殉職

岩波伸穂(張家口) 23

病妻

萩谷不可止(濟南) 23

宿直

諸橋竜泉(太原) 23

山の現場

鈴木一郎(北京) 23

同蒲線

田尻純一(運城) 23

微山湖

関伊佐夫(塩城) *3 23

華服警乗

武田辰雄(陽泉) 23

歳末

川北宗次郎(厚和) 23

偶詠

勝見しげる(北京) 23

自動車行

長田葉堂(張店) 23

中本千市(磁縣) 黒木光頭(長辛店) 蓮池栄治(厚和) 中島春雄(厚和) 合

原熊太(厚和) 南すみれ(南口) 行本滋男(長辛店) 長田七助(豊台) 中島

富美男(運河站) 宮原白雨(原平) 井上六朗(開封) 森下金重(連雲) 井上

章太郎(北戴河) 太田芳男(介休) 今野風治(臨汾) 進士悟(運城) 清水明

(徐州)

23

実践あるのみ——二月一日・興亜奉公日の訓話——

佐原憲次(理事) 24

留守宅を護る！

蘆沢生(福祉室 留守宅係) 25

〈俳句 石原沙人選〉

今野繁治(臨汾自営) 川島義雄(京鉄人事) 関伊佐夫(臨

城站) 岡靖史(内黄站) 大堀皓(頭泉站) 柳田正雄(永定門站) 今野草雪(徐

州站) 大島巨岩(輸送委員会) 田中義明(天津站) 山口祉泡(兗州司令所)

小沢隆山(京鉄学院) 太田芳男(介休列車段) 富永弥須夫(順徳医院) 宮

原白雨(原平機段) 秋元金也(介休列車段) 谷口健一(開鉄電気処) 半戸

正視(豊台機段) 白石久詩子(西直門) 25

中国研究資料の解説(二)

資業局資料室資業係 26-27

〈読書〉

清水幾太郎著 社会的人間論

今村鴻明 26

福田清人 日輪兵舎

岡本二三男 27

ホセ・オルテガ著 堀秀彦訳 愛についての省察

大井憲吉 27

〈新刊紹介〉

〈社会員ニュース〉

28-34

〈満鉄社員会だより〉

33

〈編輯室〉

井口・大島 34

資料生計所主要配給品売価表（二月十三日現在） 総務局（給与） 35 | 36
 国民食の標準（その一） 36

*1 目次では「東京支社座談会」と銘打たれている。なお、末尾に「〔興亜〕
 編輯 井口・大島」とある。

*2 最初に「泰山行 済南 田中 政蔵 二十八首別欄に登載」とある。

*3 「臨城」の誤植か。

第二号（一九四一年四月一日発行）

社歌

〈巻頭言〉われ指導者なり

平田驥一郎（総務局長）

1

〈建設一路〉会社創業二周年を顧る

平田驥一郎

長谷川巖

2

自動車

後藤三郎

3

水路

中西清

3 | 4

愛路工作

松本光之

4 | 5

農畜林

山本憲治

5

福祉

編輯

5

〈第一回中央評議会議事録〉

幹事長挨拶

6

一般会務報告

6 | 8

社員会新体制研究の中間報告

8 | 12

満鉄社員会の新体制案説明

12 | 17

大陸交通の歌

11

〈グラフ〉第一回中央評議會開催

編輯撮影

13

〈グラフ〉河ひらく

資料室提供

14 | 15

〈グラフ〉兎狩り

編輯撮影

16

〈第一回中央評議会議事録〉

〈満鉄社員会より〉

36

物価騰貴政策・住宅問題―会社現状の説明― 17 | 18
 初年度決算と本年度の予算 18 | 19
 石門支部設置報告 20
 事業・更生部内規変更報告 20
 分会組織変更報告 20
 弔慰・見舞金贈呈と三月の第四回醸金 *1 20
 労に報ゆる感謝状 20
 会計監督に万沢・佐藤君 20
 いかにして中国人に呼びかけるべきか： 21
 新生活運動に「活」を 21 | 22
 殉職同僚の記念碑建立 22
 聖なる故国の地を踏ましめよ 23
 重大時局乗切りに武道 23
 各地に宿泊所が出来る 社員会館もちかく実現 24
 何とかしたい！「家」 24
 最低生活の確保に重点 物価手当の実施ちかし 25
 生計所改革、会社で検討中 25 | 26
 社員炭の給額配給制改正方を目下研究中 26
 医療機関の不備は会社業務に支障す 27 | 28
 別居当時の事故を考へ臨時特別休暇を考究 28 | 29
 直系尊属・配偶者の葬祭と限定して研究 29
 現場服はダブルのステインカラー 非現場服は目下研究中 29
 教育機関設置には会社の側面的援助 29
 華北の内河水運 中西清（水道局） 30 | 31
 〈社業の動き〉 32
 〈社員会ニュース〉 33 | 36
 〈満鉄社員会より〉 36

*1 目次では「弔慰・見舞金贈呈内規変更と第四回醸金」

第二三号（一九四一年五月一日発行）

社歌

〈巻頭言〉社員会員に告ぐ

宇佐美寛爾（総裁）

1

〈改組社員の新発足〉

社員会新機構は反省し実践し指導し協力する訓練体制である

加藤新吉（庶務部長）

2

我等斯く編成し斯く出発す 華北交通社員会規約

転轍人語

（英）鹿妻芳行

2-5

社員会の前進のために

我々は指導者を求めてゐる

辻原八二三

7

〈声〉社風の確立

〈強力体制を整備 改組社員の発足〉

会長推戴の辞／会長就任の辞と宣誓／地方会長就任の辞と宣誓／地方

会会員総代宣誓／幹事長退任の辞／聯合会長退任の辞 *1

会長 郡新一郎／総務／地方会長

中央本部各正副部長

十一万同僚の鑑 会社創業二周年の佳日 表彰された十八君

〈グラフ〉協力の底力 北京神社植樹勤労奉仕

〈グラフ〉東路線開通

〈グラフ〉現地將兵 挺身慰問隊

〈社業の動き〉

織手に輝く健闘二十三年 高橋きみ 石野秀子対談

自らの喜びと誇りのために

〈俳句 石原沙人選 清水明（徐州工廠） 長田青波（豊台） 木幡千里（臨汾機段） 藤

原慶七郎（張鉄電処） 野村白洋（段廷） 胡麻郷清（兗州） 中村三郎（中央

学院） 柳田豊田（永定門站） 鈴木忠夫（中央学院） 菊池勝（石門工廠） 久

保こてき（濟南機段） 今野草雪（徐州站） 石丸高詩（順德列車段） 今村義

夫（石門） 鳥谷秀子（濟鉄医院） 小沢隆山（北鉄学院） 野村作太郎（連雲

列車段） 半戸正視（豊台機段）

〈太原鐵路局旬会報より〉 青郊 静峰 露葉 肥洲 星二 満水 朔風

舟汀 露窓 梅雪 一穂 東山 千愁

〈声〉汽車の窓から

増田タエ *2

21

東路線完通の記

しま・かをる

22-23

挺身慰問隊

大島編輯員

23

総裁訓示に肅然 減私奉公を誓ふ——創業二周年式典厳粛——

撓まざる前進……創業二周年記念式典の訓示……

宇佐美寛爾

24

靖国の御社に合祀 榮譽の英靈十六柱

高梁畑——建設戦警備——

阿部等

25

〈短歌 城所英一選〉

天然痘

水野うしほ（濟南）

26

装甲列車

秋山良次（天津）

26

黄土

鈴木一郎（北京）

26

愛路工作

岩波伸穂（張家口）

26

入換作業

今村義夫（石門）

26

戦陣訓

萩谷不可止（濟南）

26

禹城にて

久保こてき（濟南）

26

浅妻君触雷

長田葉堂（張店）

26-27

旋盤競技会

菊池勝（石門）

27

支那正月

中本千市（磁縣）

27

李美代子（長辛店） 原田藤雄（北京） 木村つとむ（石門） 松尾侃（三道管）

関伊佐夫（臨城） 佐藤勝子（彰德） 松尾広行（濟南） 関素子（連雲） 磯川秀

子（濟南） 馬場茂雄（小冀站） 無姓みづほ（南口） 無姓秋月（南口） 無姓喜

八郎（不明）

配列について／投稿について／二月号正誤／三月号正誤

〈声〉 寄生虫を潰せ

三井定雄

27

〈声〉 近頃の若い者

松井成徳

27

生計所の話

中央生計所

28-29

防空の知識（一）

遠藤舒（防衛主幹）

28-29

〈社員会ニュース〉

30-34

〈満鉄社員会だより〉

33

〈編輯だより〉

大島生

34

生計所主要配給品売価表（四月十八日現在）

総務局（現物給与）

35-36

国民食の標準（その二）

36

*1 目次には「会長推戴式」とある。

*2 目次では「増田タエ」

第二四号（一九四一年六月一日発行）

社歌

1

〈巻頭言〉 躰

宇佐美寛爾（総裁）

1

会長指示特第一号

郡新一郎（華北交通社員会・会長）

2-5

会長指示特第二号

郡新一郎

6-7

〈声〉 竿頭進歩

松田光二

6

防空の知識（二）

遠藤舒

6

〈声〉 温かい新体制

小山正基

7

勝利と敗北の鑑

8-9

興亜川柳

青龍刀・作 烤鴨子・画

9

〈青年社員放談会〉 我等は錬成し錬成されようと熱望する

（出席者） 板屋猛（職員・資業局弘報係）・戸田松三郎（副参事・総務局文書）・大島徳弥（雇員・資業局資料室）・田尻末四郎（職員・警務局愛路）代筆（職

員・総務局養成第一）・前田利春（傭員・豊台機務段）・有田孝之（職員・運

輸局賃率）

8-15

転轍人語

（英）

13

社員の母

15

華北交通社員殉職碑を建てよう

竹原朝平（弘報副部長）

16

華北交通社員殉職碑設計並に碑文懸賞募集

華北交通社員会

16

〈グラフ〉 社業達成祈願祭

開封地方会

17

〈グラフ〉 地方会長推戴式

太原地方会

17

〈グラフ〉 興亜の推進力青年の集団 鉄道青年隊閲兵分列

事務局編輯

18-19

〈グラフ〉 張り切る婦人部隊

青島・石門支会事務局編輯

20

〈華北交通新聞〉

21

中央アジア横断鉄道

湯本昇（元鉄道省監察官・現三信鉄道常務）

22-23

輝く建設史の一齣

亀井勝一

24-25

弾飛沫〔短歌〕

渡辺庄治（南溝站）

25

〈前線現地報告〉

26-27

芝罘とはどんなところか *1

大島編輯員

26-27

同蒲線の春

井口編輯員

26-27

前線社員の労苦を偲んで起ちました 北京の主婦たちが集ふ北翠会

後藤孝子（会長）

28

家庭園芸（六月）

城山桃夫

28

華北に来て生活上にどんな工夫をなされましたか？（ハガキ回答）

耳の漫談 にしやま・あきよし（中央鉄路医院耳鼻科医長・医学博士）

29

〈短歌 城所英一選〉 *2

晚香玉

水野うしほ（済南）

30

邂逅

深沢顕六（大同）

30

寂境

空閑緑花（開封）

30

永定河畔

鈴木一郎（北京）

30

妻逝く	萩谷不可止(濟南)	30
阿片窟	柵幾之助(順徳)	30
危険区域	川北宗次郎(厚和)	30
乗務の歌	野村作太郎(連雲)	30
警務員	手塚啓治(兗州)	30
解氷	今村義夫(石門)	30
感傷	杉本繁夫(石門)	30
曠野	村井大三郎(開封)	30
早春賦	笠田虎彦(太原)	30
同僚遺骨来	武田辰雄(陽泉)	30
軍馬輸送	松山若狭(北京)	30
北京の春	朝河宏(張家口)	30
愛児の死	山下無名(天津)	30
人妻の死	長田葉堂(張店)	30
重国佳代(石門)	立石唯一(東京)	30
とむ(石門)	蓮池栄治(厚和)	30
(頭泉)	高島崑(朔縣)	30
井上栄一(石門)	佐藤竜男(榆次)	30
島田金治(商邱)	太田光男(張家口)	30
竹居強(膠縣)	山北太蔵(太原)	30
太田芳男(介休)	正夫(史村)	30
田中義明(天津)	上野明(彰徳)	30
高橋喜代美(北京)	中本千市	30
(磁縣)	運天政順(福生荘)	30
糸田さくら(天津)	中村三郎(北京)	30
岡本好雄(開封)	岡本城夫(北京)	30
長田青波(豊台)	進士悟(運城)	30
無姓大地(張店)		30

選者の言葉

31 30-31

〈俳句 石原沙人選〉中村三郎(中央学院) ミキコ(寧武無線) 大形駿(京医) 坂原良雄(頭泉站) 山田義雄(天津機段) 長田青波(豊台站) 牧義一(保定電段) 池田旭山(前門站) 浜田耕之(馬尚站) 佃耕斎(北京電信所) 太田芳男(介休列車段) 谷口健一(開鉄電気処) 白舟生(連雲機段) 武田辰雄(陽泉警段)

飯塚蘆水(工務局) 山口止泡(兗州司令所) 関崙雨(新浦) 今村義夫(石門) 風来坊(中央学院) 柳田豊田(永定門站) 野村作太郎(連雲列車段) 鳥谷秀子(済鉄医院) 中村佳蝶(臨城檢車段) 半戸正視(豊台機務段) 宮原白雨(原平機段) 田中義明(天津站) 金子蟹石(張局) 石丸高詩(順徳列車段)

〈詩 江島京平選〉

戦闘譚

森下警務員の死を悼む

東連島

父

無題

空虚な歩み

〈社員会ニュース〉

地方会各部正副部長

〈満鉄社員会だより〉

*1 目次には「芝罘の社員群」とある。

*2 最初に「弾飛沫 南溝站 渡辺庄治/十一首別欄登載(不二男改め本号より本名庄治)」とある。

本研究は科学研究費補助金基盤研究(C)「日本占領下華北における日本語文学の様相に関する基礎的・発展的研究」(課題番号18K00335)(代表者・戸塚麻子)の研究成果の一部である。

神谷昌史 国文学科教授・日本政治思想史